

本初子午線

JJ1SXA/池

本初子午線とは、経度0度0分0秒と定義された基準の子午線(経線)を指す。

2012年現在、国際的な本初子午線としてIERS基準子午線が使用されている、「本初」とは「最初・首位」という意味である。

IERS基準子午線が策定される以前の国際的な本初子午線は、歴史的にグリニッジ子午線が長く使われた、これはIERS基準子午線から西に5.3101秒、距離にして102.478 mの位置を通過している。

したがって、グリニッジ子午線は、もはや本初子午線ではなくなっているのであるが、二つの子午線は、全地球的には極めて近いことから、現在でも「グリニッジ子午線」が「本初子午線」の意味で用いられることがある。

ゲラルドゥス・メルカトルのAtlas Cosmographicae(1595年)では西経25度線付近が本初子午線となっている。

この子午線は大西洋のアゾレス諸島・サンタマリア島のすぐ西を通過する、180度経線は、当時存在が信じられていたアニアン海峡を通過している。

赤道や地理極という明確な基準のある緯度と異なり、経度には明確な基準が自然には存在しないため、本初子午線は人為的に設定する必要がある。

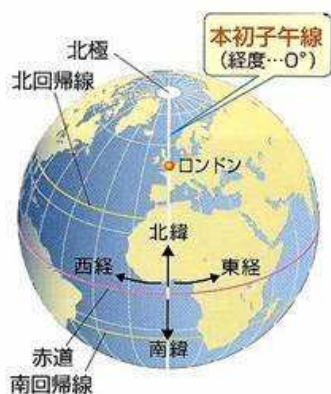
過去には、世界各地で様々な本初子午線が使用された、加えて、経度の測定には技術的な困難があった。

本初子午線は、180度経線とともに大円を形成する、この大円により、地球表面は2つの半球に分けられ、本初子午線の東の半球を東半球、西の半球を西半球という。

以上、Wikipediaによる。

(IERSは、International Earth Rotation and Reference Systems Serviceの略)

科学・技術の発達と共に、私が若い頃に学んだ常識は、どんどん変わっている、以前に書いたかも知れませんが、メートル原器等は、今や無用の長物のようだ。



東経135度子午線表示と明石市立天文科学館の時計塔